

令和5年6月版

**発注者・
施工者共通**

活用効果調査表 作成マニュアル

**国土交通省 中国地方整備局
中国技術事務所**

活用効果調査表の構成

活用技術毎に作成します

様式は、新技術の活用前に提出する「新技術活用計画書」、活用後に記載・提出する「実施報告書」及び「活用効果調査表」の3つで構成されています。

令和4年8月から、活用計画書が独立した様式へ変更されています。

【計画書】

新技術活用計画書 をクリック

計画書

(新技術活用前に
施工者が記入)

【実施報告書】及び【活用効果調査表】

※令和4年8月から【**計画書**】と【**実施報告書**】が別のタブになりました。

実施報告書 をクリック

実施報告書

(新技術活用後に
施工者が記入)

発注者用タブをクリック
活用効果調査表（発注者用）

施工者用タブをクリック
活用効果調査表（施工者用）

活用効果調査表

(新技術活用後
発注者・施工者
双方が記入)

活用効果調査表 作成マニュアル 目 次

「活用効果調査表」の役割	1 ページ
活用効果調査表 入力システムの変更概要	2 ページ
ID・パスワード発行 詳細手順 / ログイン方法	3-5 ページ
新技術活用計画書 記載方法	6-9 ページ
実施報告書 記載方法	10 ページ
活用効果調査表	活用効果調査 評価点1～5点の目安 11 ページ
	評価項目の入力について 12-13 ページ
	コメントの記載内容 14 ページ
	同等 と評価する場合 15-16 ページ
	「当該技術に関連しない項目」と評価する場合 17 ページ
	経済性の評価 18 ページ
	「第三者に対する安全性」の評価 19 ページ
	「その他」の項目を追加して評価する場合 20 ページ
	総合的所見 施工状況の写真 21 ページ
	当該技術ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか 22 ページ
	当該技術の活用の可能性 改良点・要望点 22 ページ
記入後の提出方法	23 ページ
活用効果調査表 よくある不備	24 ページ
活用効果調査表 留意点	25 ページ

「活用効果調査表」の役割

1

活用効果調査表は、直轄事業で活用された新技術の有用性を検証し、評価することを目的とした事後評価(評価会議)に欠かせない大変重要な基礎資料です。

不備が無いよう作成し、工事期間終了前であっても工事内で全ての新技術活用が終わりましたら、速やかに提出(登録)をお願いします。

後の説明でも出てきますが、オンラインでの登録前に「記入完了」にチェックを入れて頂ければ、記入漏れ等のチェックもシステムで行いますので、必ずチェックの上登録をお願いします。

5件以上の活用効果調査表が集まりましたら事後評価を行い、有用な技術の選定を行い、有用な技術の普及をはかります。

新技術活用システム

活用効果
調査表

5件以上集まった！

【 事後評価 】

優位性

特有性

現場適用性

有用な技術の選定・普及

推奨技術

準推奨技術

活用促進技術

技術のスパイラルアップ

開発・改良
【開発者】

登録

評価の
公表

客観的評価
【評価会議】

NETIS
・申請情報
・評価情報

情報提供

試行・活用
【発注者】
【受注者】

活用効果調査表 入力システムの変更概要

2

令和4年4月より WEB上での**作成・保存**に変更されました。

従来: NETISホームページへアクセスし、WEB上で作成したファイルをメール等に添付して提出

The diagram illustrates the old process for submitting the活用効果調査表 (活用効果調査表) via email. It shows three screenshots of the NETIS homepage with callouts indicating the steps:

- ① タブをクリック (Click the tab)
- ② 活用効果調査表作成をクリック (Click 活用効果調査表作成)
- ③ 「こちら」の文字をクリック (Click the text 「こちら」)
- ④ ファイル出力 (File output)

Additional callouts include:

- 登録申請書作成 活用効果調査表作成 (Registration application form creation,活用効果調査表作成)
- 「作成」をクリックしない (Do not click 「作成」)
- Zipファイルを出力し提出 ※ zipデータは、NETISホームページ上でないと開けません。 (Output Zip file and submit ※ zip data must be opened on the NETIS homepage)

新: NETISホームページへアクセスし、WEB上で作成・保存、登録ボタンで送信

The diagram illustrates the new process for submitting the活用効果調査表 (活用効果調査表) via the NETIS homepage. It shows four screenshots of the NETIS homepage with callouts indicating the steps:

- ① タブをクリック (Click the tab)
- ② 活用効果調査表作成をクリック (Click 活用効果調査表作成)
- ③ 作成をクリック (Click 作成)
- ④ IDパスワード発行⇒作成 (ID/password issuance ⇒ creation)
- ⑤ 登録 (Registration)

Additional callouts include:

- 登録申請書作成 活用効果調査表作成 (Registration application form creation,活用効果調査表作成)
- 活用効果調査表の作成・登録 (活用効果調査表の作成・登録)
- ファイルの出力なし 登録ボタンで送信 (No file output, submit with registration button)

I ID・パスワード発行 詳細手順-1

R5より工事毎IDになりR4より変更があります。

3

施工者

I のID/パスワードの発行 の手順を詳しく示します。

※NETISへアクセス (<https://www.netis.mlit.go.jp/netis/>)

- ①登録申請書作成/活用効果調査表作成タブを選択
- ②活用効果調査表作成(評価情報)を選択
- ③WEB活用効果調査表の作成を選択

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

① 登録申請書作成
活用効果調査表作成

② 活用効果調査表作成(評価情報)

③ WEB活用効果調査表

こちらではないので注意してください!

次の様式で作成できます。

- 新技術活用計画書・実施報告書
- 活用効果調査表(発注者用)
- 活用効果調査表(施工者用)

活用効果調査表の作成にあたっては、「NETIS機能操作マニュアル(オンライン活用効果調査表作成)」を確認してから行ってください。
※マニュアルは適時更新されますのでご注意ください。

WEB活用効果調査表のID・パスワードは1技術毎に必要となります。
一つの工事の中で複数の新技術を活用する場合、技術毎にID・パスワードの発行申請を行ってください。

旧システムで作成した活用効果調査表の内容を修正する場合は、こちら

施工者

⑤申請ボタンをクリックすると、NETISシステムからメールにてIDとパスワードが通知されます

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

ログインID/PW新規登録フォーム

活用効果調査票の作成・登録に必要なログインID/パスワードを新規発行します。
以下の内容を入力の上送信してください。

■工事/業務情報

受注者名
組織機関名
部署・事務所名
工事名/業務名
コリンズ/テクリス番号
調査者(施工者)氏名
調査者(施工者)メールアドレス
監督者氏名
監督者メールアドレス

各工事ごとに記入が必要になります。
1工事 1ID

④「ログインIDパスワードを新規登録」の文字をクリック

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

活用効果調査表の作成・登録

対象技術 ***-****

ログインID
パスワード

ログイン キャンセル

ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから
新規登録をお願いします。

④クリックする

施工者

新技術のNETIS番号

表を作成する新技術のNETIS番号を1件ずつ入力してください。入力いただいたNETIS番号毎に活用効果調査表の入力が行われます。
※NETIS番号は、情報種別記号「-A」「-VE」等を除く形で入力してください。(例: KT-123456)
※ログインID/PW発行後に調査表を作成する新技術を追加することも可能です。

技術を追加する

新技術のNETIS番号(1技術目) 技術活用提案日

A,VR,VEは除くNETIS番号入力

監督職員へ確認メールを送付します。
確認が完了次第、ご指定のメールアドレスへID/PWのお知らせメールが届きます。

⑤申請ボタンをクリックする

技術活用提案日を入力。
提案日よりA,VR,VEが自動選択される。

I ID・パスワード発行 詳細手順-2

4

発注者

⑥発注者に申請メールが届くので、メール画面から確認画面へアクセスし申請情報を確認、申請承認を行う

差出人: NETIS システム <admin@netis-online.jp>
送信日時: 2022年4月22日金曜日 13:33
宛先: [REDACTED]
件名: 【NETIS】活用効果調査表入力用ID/PW発行承認依頼: QS-170010 令和4年度新技術登録審査業務

分類項目: 分類項目 オレンジ

新技術活用工事
発注者 ご担当者様

施工者より、NETIS 活用効果調査表入力用ID/PWの発行申請が届いております。
以下のリンクからID/PW 発行申請承認用 Web サイトにアクセスいただき、申請内容をご確認の上、ID/PW 発行の承認をお願いいたします。

[ID/PW 発行申請承認用 Web サイトへ](#)

※確認完了後、システムから発注者・施工者にID/PWをメール通知いたします。

【新技術活用工事情報】

調査票を作成する新技術の NETIS 番号 QS-170010
受注者名 [REDACTED]

「ID/PW発行申請承認用Web
サイトへ」をクリック

ページ上の申請情報を確認し、内容に問題がない場合は「承認」ボタンをクリックする。
※内容に問題がある場合は、画面を閉じ、調査者（施工者）に対しメール・電話等で修正依頼を行う。調査者（施工者）は、修正依頼内容に従い、再度⑤の作業を行う。

活用効果調査表オンライン入力登録システム入力用ID/PW通知サイト
活用効果調査票の作成・登録に必要なログインID/パスワードの新規発行申請を承認しますか？

調査票を作成する新技術のNETIS番号 TH-200004

受注者名	受注者
組織機関名	東北地方整備局
部署・事務所名	総務部
工事名	活用工事
工事のコンシズ番号	12345678
調査者（施工者）氏名	調査者
調査者（施工者）メールアドレス	a7005@n-koel.co.jp
監督者氏名	監督者
監督者メールアドレス	a7005@n-koel.co.jp

承認するとID/PWの発行申請者へメールを送付します

[承認](#)

各工事ごとに
内容を確認し、承認する
必要があります

⑥承認をクリックする

⑦発注者及び施工者にオンライン活用効果調査表用ログインID、パスワードが届く

差出人: NETIS システム <admin@netis-online.jp>
送信日時: 2022年4月25日月曜日 10:04
宛先: [REDACTED]
件名: 【NETIS】活用効果調査表入力用ID/PW発行のお知らせ: QS-170010 令和4年度新技術登録審査業務

分類項目: 分類項目 オレンジ

新技術活用工事
発注者 ご担当者様

NETIS 活用効果調査表入力用の ID/PW が発行されましたのでお知らせします。
以下の ID/PW で、活用効果調査表入力用 Web サイトへログインの上、活用効果調査表の入力をお願いいたします。
※ID/PW はログインに必要となりますので、紛失しないよう保管をお願いいたします。

【ID/PW】

施工者用 ID [REDACTED] PW [REDACTED]
発注者用 ID [REDACTED] PW [REDACTED]

発注者

【NETIS】活用効果調査表入力用ID/PW発行のお知らせ: [REDACTED]
令和4年度 [REDACTED] 受信トレイ x

NETIS システム <admin@netis-online.jp> 10:03 (4 時間前) ☆ ↶

To [REDACTED]

新技術活用工事
ご担当者様

NETIS活用効果調査表入力用のID/PWが発行されましたのでお知らせします。
以下のID/PWで、活用効果調査表入力用Webサイトへログインの上、活用効果調査表の入力をお願いいたします。
※ID/PWはログインに必要となりますので、紛失しないよう保管をお願いいたします。

【ID/PW】

施工者用 ID [REDACTED] PW [REDACTED]

施工者

ログイン方法

NETISホームページへアクセスし、WEB上で作成・保存・提出を行います。

① タブをクリック
登録申請書作成
活用効果調査表作成

② 活用効果調査表作成をクリック

③ 作成をクリック

④ メールで届いたIDパスワードを入力⇒ログイン

⑤ オンラインで入力していきます

工事情報を表示
コリンズ/テクリス番号、連絡先メールアドレス等を変更する画面を表示
「作成対象の活用効果調査表一覧」の表示内容を絞り込み検索
クリックすると調査表作成画面を表示
作成対象の活用効果調査表一覧
作成対象の調査表一覧を表示
調査表を作成する新技術の追加・削除を行う画面を表示
クリックすると内容を一時保存
入力ページを切り替え
操作解説用チャットボットを起動
コメントを入力
情報を入力

新技術活用計画書 記載方法-1

6

ログイン画面より、発行されたID及びパスワードを入力しログインをし、「組織機関名」から「活用等の型」までを記載します。「登録番号」「新技術名」「比較する従来技術」は自動入力されます。

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索

登録申請書作成
活用効果調査表作成

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。
・登録内容に関するお問い合わせはこちら
・システム操作方法に関するお問い合わせはこちら

技術活用提案日 2022/04/03

登録番号(技術活用提案日時点) QS-170005

新技術名称 クマンツメ

比較する従来技術 平爪を装着したバックホウ+人力剥離作業

組織機関名 中国地方整備局

部署・事務所名 中国技術事務所

工事名

活用等の型

※新技術活用システム実施要領で定められたNETIS技術を活用するシステム
新技術活用システム実施要領

登録番号(最新) VE

・登録番号
・新技術名称
・比較する従来技術
は自動入力されます

新技術概要説明情報

NETIS登録番号 QS-170005-VE

新技術名称 クマンツメ

アブストラクト

事後評価

テーマ設定型比較表への掲載

受賞等

事前審査・事後評価

技術の位置付け(有用な新技術)

旧実施要領における技術の位置付け

活用効果調査入力様式

「従来技術との比較」タブをクリック

比較する従来技術に注目！

活用効果調査表は、NETISホームページに記載の「比較する従来技術」と比較して作成していきます。



比較する従来技術

比較する従来技術が適切でない場合

NETISホームページに記載の「比較する従来技術」との比較が不適切と考えられる場合も、ホームページに記載の技術と比較してください。

その上で「当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか」欄で**適切でなかった**を選択し、**不適切と思う理由**と**適切と思われる従来技術名**を記入してください。(このマニュアルの20ページを参照して下さい。)

「活用等の型」について、選択内容を確認してください。

「活用等の型」が新設・名称変更されました

令和2年度に新設・名称変更された活用型があります。計画書提出時の活用型が選択できない場合、後継の型を選びます。

- ◇ 発注者指定型 **継続**
- ◇ 発注者指定型（選択肢提示型） **新設**
- ◆ 施工者選定型（総合評価技術提案） **名称変更**
旧：施工者希望型（契約前提案）
- ◆ 施工者選定型（契約後提案） **名称変更**
旧：施工者希望型（契約後提案）

その他の活用型については、発注課までお問合せください。

（ 試行申請型(発注者指定)、試行申請型(契約後提案)
フィールド提供型、テーマ設定型(技術公募) ）

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 登録申請書作成 活用効果調査表作成 テーマ設定型の比較表

画面を閉じる 一時保存 印刷・プレビュー 登録

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上で。
・登録内容に関するお問い合わせはこちら
・システム操作方法に関するお問い合わせはこちら

登録番号 [] - []
新技術名称 []
比較する従来技術 []
部署・事務所名 []
工事名 []
活用等の型 []

活用等の型を選択する際に間違いやすいので注意してください。

- 試行申請型(発注者指定)
- 試行申請型(契約後提案)
- 試行申請型
- 発注者指定型
- 発注者指定型（選択肢提示型）
- 施工者選定型（総合評価技術提案）
- 施工者選定型（契約後提案）
- フィールド提供型
- テーマ設定型(技術公募)

快適トイレ の場合

NETIS登録された「快適トイレ」を使用する場合は、「**発注者指定型**」となる場合があります。特記仕様書を確認してください。



発注者指定型(選択肢提示型)の場合

発注者指定型（選択肢提示型）は「写真管理の生産性向上に資する技術」があります。特記仕様書を確認してください。



発注者指定型(選択肢提示型)の新設

工事発注段階において、発注者が対象とする技術テーマ及びテーマに対して効果が期待できる複数の新技術を提示し、契約後に受注者が新技術を選択する活用方式

発注者指定型(選択肢提示型)の新技術リスト(参考)

テーマ：施工管理における写真管理の生産性向上に資する技術 R2.6

新技術名称	NETIS番号
SnapChamber電子小黒板アプリ(スマートデバイス用)	KT-160005-VE
cyzen	KT-170025-A
スマートデバイス用 デジタル野帳アプリ	KT-180030-VE
&ANDPAD	KT-180049-A
蔵衛門Pad	KTK-160024-VE
工事写真 黒板自動解析システム	HR-190001-A
土木標準積算データを利用した施工管理システム[デキスパート] 掲載終了技術	KK-110050-VE
CAD機能を搭載した土木測量支援現場端末システム(TREND-FIELD) 掲載終了技術	KK-120004-VE
Booth工事写真アプリ	KK-130056-VE
調査写真撮影用アプリ	QS-170010-A

新技術リストに掲載されていない技術でも、写真管理が出来るNETIS登録技術であれば該当となります。



発注者指定型(選択肢提示型)のポイント

- ◆ 契約後に受注者が新技術を選択し、「発注者指定型(選択肢提示型)」となる。
2つ目からは「施工者選定型」となる。
- ◆ 特記仕様書に記載がなければ「発注者指定型(選択肢提示型)」にならない。

新技術活用計画書 記載方法-4

9

NETIS掲載の「**比較する従来技術**」と比較して活用理由を記載し、計画書を完成させます。

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表（施工者用）

☒ 記入完了 ※下記項目の記入が完了しています

作成日 2022/04/25

受注者名

契約額(円)

工事期間 2022/04/09 ~ 2023/03/31

新技術施工期間 2022/04/25 ~ 2023/03/27

施工場所 広島県広島市安芸区船越南2-8-1

提出前には、必ず「**記入完了**」にチェックを入れてください。チェックがないまま、登録ボタンを押した場合、正しくNETISへ登録されない原因となります。

活用理由 ※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

例)活用理由として2項目を選択

☐ 経済性

☒ 工程

☒ 品質・出来形

☐ 安全性

☐ 施工性

☐ 環境

☐ その他 ()

●●●●●が優れているため

●●●●●が向上するため

活用効果調査表での評価項目

評価項目(6項目)

- ① 経済性 ② 工程 ③ 品質・出来形
④ 安全性 ⑤ 施工性 ⑥ 環境

※原則、その他(自由設定)欄の評価はしません



活用理由 作成のポイント

今回この新技術を活用する理由を記入願います。

NETISホームページの「**比較する従来技術**」欄の内容を記入する欄ではありません。



(参考) NETISホームページ

「**従来技術との比較**」タブをクリック

比較する従来技術

活用の効果

項目	活用の効果	比較の根拠
経済性	向上 (41.95%)	従来技術と比較して施工費が安価になる
工程	短縮 (50%)	従来技術と比較して剥き取り作業が削減され、短縮される
品質	向上	
安全性	向上	
施工性	向上	従来技術と比較して剥き取り効率が向上し施工効率が向上する
周辺環境への影響	向上	
	向上	
	向上	
その他、技術の	舗装版剥き取りにおいて、従来工法と比較して剥き残しが少なく、特殊な形状にしたことで剥き取り作業の効率が改善され工程の短縮が可能となった。	

「**活用の効果**」欄はあくまで参考とし現場の意見を記載してください。

その他、技術の

アピールポイントは、評価項目ではありません。活用する際の**参考**にしてください。
活用計画書の活用理由には、記載不要です。

実施報告書 記載方法（R5よりVEは提出不要。）

10

計画書提出時から変更がありましたら、計画書欄の情報も更新してください（工期など）。
「施工概要」欄は、全ての欄に記入が必要ですので、留意してください。

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表（施工者用）

☒ 記入完了 ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

作成日

受注者名

契約額(円)

工事期間 ~

新技術施工期間 ~

施工場所

計画書の作成後、工事期間や新技術
施工期間などの変更がありましたら
情報を更新してください。

VEについては、年度をまたいで工期延期された技
術で、次年度に新技術の活用があるものは工事期
間及び新技術施工期間情報を更新して下さい。
* 年度毎で活用率の集計・公表が必要なため。

工事内における全ての新技術活用後、
速やかに提出してください。
工事完成前であっても調査表の提出
は可能です。
その際の工期・契約完了日は、最新を
記入します。

提出前には、必ず、「記入完了」にチェックを入れて
ください。チェックがないまま、登録ボタンを押した
場合、正しくNETISへ登録されない原因となります。

☒ 記入完了 ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

例) 道路改良 L=Om、橋梁下部工〇式、橋脚〇基

【主要工種のみ記入】

対象数量 全角127文字以内。

例) 路面切削 土工部 Om³

【新技術の工種の数量】

新技術使用箇所 全角127文字以内。

例) 橋梁の切削箇所 Om³

【上記の内、新技術の使用箇所】

施工（活用）概要資料 ※活用概要データを添付してください。

ファイルをドラッグ&ドロップして
ください。または

ファイルを選択 選択されていません

※ファイルは30MBまでのものとしてください。

現場施工条件 各全角1000文字以内。

●現場条件	●周辺状況（病院、学 校、鉄塔の有無等）	●自然環境（騒音、振 動、水質等）
例) 山間部	例) 該当なし	例) 該当なし

障害 施工上で重大な障害や問題が生じましたか。

●無 ○有

障害の内容 全角127文字以内。

作業環境 ●陸上作業 ○水上作業 ○地下作業 ○水中作業 ○高所作業

施工概要「内容」欄
は、どのような工事（業
務）で、どのように活用
されたのか知るための
欄ですので、工事全体
の施工（業務）内容が
わかるように記載して
ください。新技術の説明
欄ではありません。

「施工（活用）概要資料」が必須項目となっ
ています。新技術の施工図や写真等を何か
添付してください。

該当項目の○をクリックして
選択します。

「現場施工条件」は、
未記入が多い欄です。
特筆することがない場合、
「特になし」と記載してく
ださい。

活用効果調査表 評価点1～5点の目安

11

活用した新技術が、「比較する従来技術」に比べて「優れる」か、「同等」か、「劣る」か判断し、どの程度優れているか、どの程度劣っているか、↓この表を目安に判断しチェックを入れてください。

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

経済性

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3	●4 ○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 機械経費・製品評価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数値より多かったため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品評価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数値より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

工程

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3	●4 ○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
- 工程計画が組みやすかったため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が向上したため
- 仮設が減少したため
- 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が組みやすかったため
- 予定工程どおりに進捗しなかったため
- 施工性が劣ったため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

品質・出来形

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	●3	○4 ○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 品質が向上したため
- 出来形・精度が向上したため
- 耐久性が向上する構造になったため
- 品質・出来形の管理項目が減少したため
- 品質・出来形の管理項目が増加したため

劣っていた点

- 品質が低下したため
- 出来形・精度が低下したため
- 耐久性が劣る構造になったため
- 品質・出来形の管理項目が増加したため
- 品質・出来形の管理項目が増加したため

安全性

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3	○4 ●5

○当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 運搬・配送事故の危険性が減少したため
- 労働災害の危険性が減少したため
- 作業環境(騒音・振動・照度等)が向上したため
- 危険物の取扱が減少したため

劣っていた点

- 運搬・配送事故の危険性が増加したため
- 労働災害の危険性が増加したため
- 作業環境(騒音・振動・照度等)が悪化したため
- 危険物の取扱が増加したため

施工性

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3	●4 ○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 現場での施工が減少したため
- 仮設工が減少したため
- 作業員の作業が容易になったため
- 熟練者に依存した作業が減少したため
- 施工の機械化が向上したため
- 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

- 現場での施工が増加したため
- 仮設工が増加したため
- 作業員の作業が難しくなったため
- 熟練者に依存した作業が増加したため
- 施工の機械化が低下したため
- 施工時の制約条件が増加したため

環境

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3	●4 ○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため
- 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため
- 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
- 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル性が向上したため)
- 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため
- 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため
- 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
- 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため)
- 省エネルギー・省資源化が低下したため

その他

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3	●4 ○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント

その他の欄は、当初使用しません。(評価点も付けません)

※新技術評価会議において、追跡調査が必要と判断され、評価会議が決定した調査の目的に合致する調査内容、調査方法等により、調査を実施する場合の欄です。

評価項目の入力について - 1

12

6つの項目を①評価点数 ②調査の視点（優れていた点・劣っていた点） ③コメント の3項目により評価します。

①評価点数を入力します。
○をクリックし選択します。

②該当する項目の
□をクリックし
☑チェックを入れます。

安全性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	● 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 施工機械がバックホウタイプなので機動性があり、転倒のリスクも減少し、安全性が高い。

③コメント重視の評価となっております。
コメントを必ず記入してください。

優れていた点

- ☒ 墜落・転落事故の危険性が減少したため
- ☐ 重機災害の危険性が減少したため
- ☒ 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- ☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため
- ☐ 危険物の取扱が減少したため

調査の視点

劣っていた点

- ☐ 墜落・転落事故の危険性が増加したため
- ☐ 重機災害の危険性が増加したため
- ☐ 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- ☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が悪化
- ☐ 危険物の取扱が増加したため

④効果調査の点数(○点)と「優れていた点・劣っていた点」のチェックが、自動的に連動した点数に変更されるシステムではありませんので整合性を確認します。

各評価のチェックポイント

- ◆ ①効果調査（評価点数○点）
②優れていた点・劣っていた点
③コメント
 - ◆ 計画書の「活用理由」
「総合的所見」
- の整合が取れているか？
- と整合が取れているか？



✓ に該当項目がないとき

「優れていた点・劣っていた点」に該当項目がない場合、☑は不要です。
コメントと評価点で評価してください。

優れていた点が多く評価が「5」の例

経済性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	● 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 経済性は、ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材(敷鉄板)に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

(全般的に優れている点をコメント)

優れていた点

- ☒ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☒ 仮設費が減少したため
- ☒ 施工日数が短縮したため

☐ 施工量が想定数量より多かったため

☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

優れていた点のチェックが4項目

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため

優れていた点は1項目だが評価が「5」の例

工程

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	● 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 工程は、地盤改良に要する日数を当初8日間予定していたが、4日間(1/2)となり、施工日数を短縮できたという理由で非常に優れていた。

(1項目がいかに優れていたかを具体的にコメント)

優れていた点

- ☒ 施工日数が短縮したため

☐ 工程計画が組みやすかったため

☐ 予定工程どおりに進捗したため

☐ 施工性が向上したため

☐ 仮設が減少したため

☐ 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

優れていた点のチェックが1項目

劣っていた点

☐ 施工日数が延長したため

☐ 工程計画が組みづらかったため

☐ 予定工程がずれに達したため

コメントの記載内容

【必須項目】

- ◆ 効果調査でチェックした評価(1～5点)の理由
- ◆ 「優れていた点・劣っていた点」でチェックした項目の補足
- ◆ 「優れていた点・劣っていた点」の項目にはない、具体的な活用状況



現場の具体的な事例が
有用な資料となります。
可能な限り
定量的なコメントを
記載してください。

工程

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	● 4	○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 機械設備の搬入・搬出にかかる仮設が大幅に省略できたため、当初、8日間予定していた搬入・搬出の日程が6日間(2日間の短縮)になり、従来技術より工程が短縮できた。

優れていた点

- ☒ 施工日数が短縮したため
 - ☐ 工程計画が組みやすかったため
 - ☐ 予定工程どおりに進捗したため
 - ☐ 施工性が向上したため
 - ☐ 仮設が減少したため
 - ☐ 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 工程計画が組みづかったため
- ☐ 予定工程どおりに進捗しなかったため
- ☐ 施工性が劣るため
- ☐ 仮設が増加したため
- ☐ 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

(参考) 定量的なコメント作成の際、参考にしてください

「従来技術との比較」
タブをクリック

活用効果の根拠

コメント記載のポイント

- ◆ 冒頭に「〇〇のため」と理由を入れると、わかりやすいコメントになります
- ◆ コメント事例集もご活用ください

工程のポイント

工程と施工性は、密接な
関係にあります。相互の
整合性を確認します。

「同等」の評価事例を示します。同等の場合も必ずコメントを記載してください。

「同等」の評価事例①

施工性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	● 3	○ 4	○ 5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 従来技術と比較して、構造が類似した落橋防止材であるため、現場での施工性は同程度であった。

「同等」の評価の場合も必ずコメントを記載してください。

優れていた点

- ☐ 現場での施工が減少したため
- ☐ 仮設工が減少したため
- ☐ 作業員の作業が容易になったため
- ☐ 熟練度に依存した作業が減少したため
- ☐ 施工の機械化が向上したため
- ☐ 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

- ☐ 現場での施工が増加したため
- ☐ 仮設工が増加したため
- ☐ 作業員の手間が増えたため
- ☐ 熟練度に依存した作業が増加したため
- ☐ 施工の機械化が低下したため
- ☐ 施工時の制約条件が増加したため

「同等」と評価する場合、「優れていた点・劣っていた点」のチェックは不要です。

「同等」の評価事例② 総合的に判断

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○ 1	● 3	○ 4
○ 2		○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 新技術の製品単価は、従来技術よりも高額であったが、工程の短縮、作業人員の減少により、総合的には、従来と同等の経費での施工ができた。

具体的な事由を列挙し、同等と評価した理由を記載します。

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☒ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

優れていた点があるが

劣っていた点

- ☒ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

劣っていた点もありトータルで判断。

「同等」の評価事例③ 優れていた点があるが同等(3点)と判断

環境

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○ 1	● 3	○ 4
○ 2		○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 周辺環境への騒音は低減したが、総合的に評価し同等であった。

コメントで、同等と判断した理由を明記してください。

優れていた点

- ☒ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため
- ☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため
- ☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
- ☐ 産業廃棄物の発生量が減少したため
- ☐ 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

- ☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が増加したため
- ☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため
- ☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
- ☐ 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため)
- ☐ 省エネルギー・省資源が低下したため

優れていた点があり有用な技術だが「従来技術より優れる(4点)」では過大として「同等(3点)」と評価したケース

「当該技術に関連しない項目」と評価する場合

17

◆製品や工法が従来技術と異なるため、ほとんどの評価項目で評価すべき項目に該当します。
「経済性」・「工程」・「安全性」・「施工性」は、原則「当該技術に関連しない項目」とせず、評価（1～5点）を行ってください。従来技術と違いがない場合は、「同等」となります。

品質・出来形

効果調査

○をクリックし
選択します

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1 ○2	○3	○4 ○5

●当該技術に関連しない項目である

コメント

全角1000文字以内。

例) 品質・出来形に影響を及ぼさない技術であるため関連しない評価項目である。

コメント欄に「当該技術に関連しない項目である」と判断した理由を必ず記載してください。

優れていた点

☐ 品質が向上したため
☐ 出来形・精度が向上したため
☐ 耐久性が向上する構造になったため
☐ 品質・出来形の管理項目が減少したため
☐ 品質・出来形の管理頻度が減少したため

劣っていた点

☐ 品質が低下したため
☐ 出来形・精度が低下したため
☐ 耐久性が劣る構造になったため
☐ 品質・出来形の管理項目が増加したため
☐ 品質・出来形の管理頻度が増加したため

「当該技術に関連しない項目である」と評価する場合、優れていた点・劣っていた点のチェックは不要です。

(参考)コメント事例

- ・工程は、施工日数に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である
- ・当該技術は、施工性に関わらないので関連しない
- ・今回の作業条件において、安全性は評価対象としない
- ・環境に影響する事項はない

※コメント事例集を参考にしてください

◆発注者・施工者どちらかが評価（1～5点）としており、どちらかが「当該技術に関連しない項目」としている場合は、評価をしている方にあわせ、評価（1～5点）をしてください

製品や工法が従来技術と異なりますので、

経済性の評価は、「当該技術に関連しない項目」に該当しません。活用理由に挙げていない場合もNETIS掲載の「比較する従来技術」と比較し経済性を評価してください。

【必須項目】

経済性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	● 4	○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例)製品単価は、従来技術と同等であったが、従来技術に比べて、作業工程が2工程少ないことから、作業日数が短縮され、人件費、仮設費が減少した。

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☐ 作業人員が減少したため
- ☒ 仮設費が減少したため
- ☒ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

(参考)NETISホームページ

「従来技術との比較」タブをクリック

「比較する従来技術」

活用効果の根拠

経済性の視点

1) 技術の導入コスト(イニシャルコスト)

2) 工期短縮に伴う管理費の減少や仮設費用の低減、作業人員の増減などのランニングコスト

◆ 金額は、NETISホームページの「活用効果の根拠」や契約図書、実費(施工者の場合)等を参考に記入して下さい。



一般の通行車両や通行人に対して交通事故リスクが低減する効果、地下埋設物に関する効果については、安全性の「優れていた点・劣っていた点」に該当チェック項目がありませんが、**その他欄を追加して評価するのではなく、安全性において評価します。その際、「優れていた点・劣っていた点」に☑チェックをせず、コメント欄に詳しく記載**することで評価します。また、**総合的所見**にも記載をお願いします。

第三者に対する安全性を評価する場合

安全性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
☐ 1	☐ 2	☐ 3
		☒ 4
		☐ 5

○当該技術に関

①評価点数をクリックします。

コメント 全角

例) 通行規制が不要となるため、
通過車両への安全性が向上した。

③コメント欄に、評価点(1~5点)の理由、新技術を使用した効果や使用状況など、詳しく記載をお願いします。

優れていた点

- ☐ 墜落・転落事故の危険性が減少したため
- ☐ 重機災害の危険性が減少したため
- ☐ 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- ☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため
- ☐ 危険物の取扱が減少したため

劣っていた点

- ☐ 墜落・転落事故の危険性が増加したため
- ☐ 重機災害の危険性が増加したため
- ☐ 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- ☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が悪化したため
- ☐ 危険物の取扱が増加したため

②該当する項目がないため
チェックをしません。

通行安全性に関する事例

例) 例年の草刈り作業が不要となるため、草刈機による飛び石や草の繁茂による視距不良がなくなり、歩行者、通行車両への安全性が向上した。

地下埋設物に関する事例

例) 矢板による仮設が不要となるため、地下埋設物への影響がなくなり、安全性が向上する。

新技術評価会議において、追跡調査が必要と判断され、調査を実施する場合の欄です。

その他

タイトル 全角20文字以内。

①評価内容を示す
タイトルを記入します。

②タイトルを記入すると評価点数
(1～5点)のチェック(○をクリック)
が可能となります。

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☒ 5

●当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

③コメント欄に、従来技術より優れる、
劣る点について記入してください。

よくある間違い

・NETIS情報の「技術のアピールポイント」を書いている

アピールポイントは、6項目を総合した内容なので6項目と重複してしまいます。

・他の6項目に集約できる内容を書いている

「安全性」や「周辺環境への影響」等の効果であるが、「優れていた点・劣っていた点」に該当チェック項目がない場合、**その他欄を追加して評価するのではなく、「優れていた点・劣っていた点」に ☒ チェックをせず、コメント欄に詳しく記載すること**で評価します。また、**総合的所見**にも記載をお願いします。

追加項目がある技術の例

NETISホームページにおいて
6項目以外の評価項目が追加
されている技術では、その他
欄を追加して評価することが
できます。

概要			
従来技術との比較		特許・選考証明	単価・施工方法
		問合せ先・その他	詳細説明資料
「従来技術との比較」タブをクリック			
活用の効果			
比較する従来技術			
項目	活用の効果		
経済性	向上	低下 同程度 (-75.97%)	洋式トイレと性が低下する
工程	短縮 (0.2%)	同程度 増加	洋式トイレと短縮する。
品質	向上	同程度 低下	-
安全性	向上	同程度 低下	洋式トイレと準に適合した
施工性	向上	同程度 低下	
周辺環境への影響	向上	同程度 低下	
作業環境	向上	同程度 低下	現場のイメージ 洋式トイレと作業環境の向上が期待できる
その他、技術のアピールポイント等	従来技術は和式仮設トイレと手洗器の個別設置による施工性向上、PR用パネル採用、手洗器の設置による衛生性の向上、PR用パネル採用、手洗器の設置による衛生性の向上、PR用パネル採用、手洗器の設置による衛生性の向上		

技術のアピールポイントは 評価項目ではありません。

総合的所見 施工状況の写真

上記6項目の評価を総合して記載します。

総合的所見 NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

優れていた所 全角1000文字以内。

例)耐摩耗性に優れ、鋭利で剥ぎ取りやすい形状の爪であるため、従来工法に比べて剥ぎ取り効率が向上した。また、既設床版を傷つけることなく施工を行うことができた。

劣っていた所 全角1000文字以内。

例)新技術の導入は、追加費用となった。

留意する所 全角1000文字以内。

例)剥ぎ取り箇所状況に応じて刃先の取付位置の選定が必要。

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☐ 適切であった ☐ 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

☐ 今後もし是非活用したい ☐ 活用を検討したい ☐ 場合によっては活用することもある ☐ 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

「優れていた所」又は「劣っていた所」のどちらか1箇所以上記入が必要です。

6つの評価項目における
・評価点(○点)
・優れていた点・劣っていた点
・コメント
と整合の取れた内容であるかチェックしてください。

次のページで説明しています。

NETISに掲載されていない情報(施工性や技術の調達状況など)が現場での活用を判断する重要な情報となります。

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式の画像ファイルを指定してください。



登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。



クマンツメ0.28m3用



剥ぎ取り後の状況

舗装面剥ぎ取り作業

【施工者のみ】 【必須項目】
工事・業務での活用状況がわかる写真を必ず添付してください。(全景、近景、施工時、完成時等)

システムやソフトなど、施工写真がない場合、利用状況やモニタ画面の写真を添付願います。

【施工者のみ】 写真タイトルの記載忘れが多いため記入をご確認ください。

当該技術ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

22

「適切であった」「適切でなかった」いずれかに必ずチェックします。

【必須項目】

「適切でなかった」とする場合、
「適切と考えられる技術名」とその「理由」を記入してください。

○をクリックし
選択します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☐ 適切であった ☒ 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

本技術の適用打設長は〇〇mであるのに対し、比較する従来技術「△△工法」の適用打設長は、△△mであり、比較する従来技術は「□□工法」が望ましい。

「理由」

「適切と考えられる工法名・技術名」

当該技術の活用の可能性

改良点・要望点

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

○をクリックし選択します

☐ 今後も是非活用したい ☐ 活用を検討したい ☒ 場合によっては活用することもある ☐ 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

当該技術の改善点・要望等がありましたら記載してください。

当該技術の活用の可能性について、該当項目にチェックし、その理由をコメントしてください。

技術開発者にフィードバックすることで、技術のスパイラルアップの実現につながります。
積極的な記入をお願いします。

記入後の提出方法

【施工者の入力完了したら】

- ①施工者は、入力が終わりましたら、「登録」ボタンをクリックしてください。
NETISシステムから自動メールにて発注者（監督員）へ通知されます。
発注者（監督員）は、NETISに保存された、計画書または実施報告書、活用効果調査表を見ることができます。

【発注者の確認または入力完了したら】

- ②発注者（監督員）は、修正が必要な箇所がありましたら、施工者に対し「修正依頼」ボタンにて修正を依頼します。
連絡には、コメント欄を使用することができます。
中国技術事務所へ提出するには、「登録」ボタンをクリックします。

【中国技術事務所から確認・修正依頼があったとき】

- ③施工者の作成箇所については、発注者から②により確認・修正依頼を行ってください。確認・修正が終わりましたら、再度、登録ボタンにて中国技術事務所へ提出してください。

【施工者】

登録ボタンをクリックすると
NETISシステムの
自動メールにて
通知されます



【発注者】

不備①:「活用等の型」が異なる。

⇒ 7 ページ参照

×試行申請型、フィールド型、テーマ設定型などで提出されている。

→上記の活用型の場合、技術登録申請者との調整が必須となるため、**事前確認又は担当職員に確認**をお願いします。

不備②:コメントの記載がない

⇒ 14 15 16 17 ページ参照

×「同等」や「当該技術に関連しない項目」と評価した項目において、コメントが記載されていない。

→**コメントは必ず記載してください。**

不備③:評価(○点)とコメント及び「優れている点・劣っている点」が不整合

⇒ 12 ページ参照

×評価は同等(3点)だが「優れている点」にチェックがある。

→評価(○点)と「優れている点・劣っている点」のチェックが整合しない場合、**コメントでわかるように記載してください。**例) ○○○は向上したが、総合的に見て評価は同等とする。

不備④:NETIS情報の“比較する従来技術”との比較になっていない。

⇒ 6 22 ページ参照

活用効果調査表はNETIS情報に記載の従来技術と比較と比較する必要があります

現システムでは自動で、NETIS情報に記載の従来技術が入力されます。

×各現場で従来技術がそぐわない場合等、ほかの従来技術と比較している。

→必ずNETISホームページに記載の「比較する従来技術」と比べて記入してください。

比較が適切でないと考えられる場合には、調査表の「当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか。」欄で「適切でなかった」を選択し、**適切と考えられる技術名と理由**の記入をお願いします。

留意点①:提出時期

×新技術の活用は終了したが、活用効果調査表を提出していない。(VEは必要なし)

→工事内における全ての新技術活用後、速やかに提出してください。工事が完了していなくても、新技術の活用が終わりましたら、工事完了前でも提出は可能です。ただし、新技術の使用途中では提出できません。

留意点②:快適トイレ対象工事で、NETIS製品を使用した場合

→現在、ほとんどの工事が快適トイレの対象工事になっています。

快適トイレ対象工事で、快適トイレにNETIS製品を使用した場合は、

発注者指定型になる場合がありますので、ご注意ください。

各工事の特記仕様書をご確認下さい。

【特記事例】

第〇条 現場環境改善（快適トイレの試行）

1. 内容

受注者は、現場に以下の（１）～（１１）の仕様を満たす快適トイレを設置することを原則とする。（１２）～（１７）については、満たしていればより快適に使用出来ると思われる項目であり、必須ではない。

【快適トイレに求める標準仕様】

（１）洋式便座

（２）水洗機能（簡易水洗、し尿処理装置付き含む）

（ 中 略 ）

2. NETIS登録された快適トイレの取扱い

NETIS登録された快適トイレを使用する場合は、「公共工事等における新技術活用システム」実施要領の3.3.3.3 発注者指定型（３）５）に基づき、活用効果調査を行うものとする。

留意点③:購入のみで使用がなかった場合

油処理剤やアスファルト補修材のように突発的な事故対応用に購入し、最終的に使用しなかった

→活用効果調査表は作成願います。活用報告書をできる範囲で記入し、活用効果調査表は、

担当課の会社名、記入者、連絡先を記入し、総合的所見に「〇〇のため、購入をしたが、〇〇がなかったため使用していない」等の記入をお願いします。